

[1] 新会長挨拶

伊藤 禎彦

昭和59年衛生工学科卒、61年衛生工学専攻修了の伊藤禎彦と申します。長い伝統を持ち、そして京都大学の中でも有数の同窓会組織といわれる京都大学土木会の会長を仰せつかることになり、誠に光栄に存じます。



さて、この1年間は、木村前会長のもと、強力なリーダーシップによりまして、京土会のさまざまな改革が強力に押し進められました。その改革は多方面にわたりましたので、新会長として、新しい基軸を打ち出すというよりは、その強力な慣性力を維持し、開始された改革内容の定着を図るのが先決であろうと考えているところでございます。

それに加えて申し上げるならば、特に女性会員との一層の連携を図るという課題を見いだすことができていると思っております。現在、社会の各層において女性の割合あるいは数を増やすということが重要なテーマになっています。そうした流れを受け、桂キャンパスの地球工学系においても、女性の教員あるいは職員の方々が働きやすい職場環境を作ることなどを目的として、本年度、大学本部から支援金が配分されました。それによって、今年内にはC1棟内に育児支援・休憩スペースが新たに整備される予定になっております。女性の割合や数を増やすという声は随分昔からありましたが、掛け声だけでは遅すぎるのが分かってしまったものですから、強制的に増やすという手段に踏み切っているわけですが、それはそれで一理あるのですが、一方では発生する問題も当然出てきていまして、皆さんの職場で既に発生している、あるいは発生しつつある問題点なども一部伺っているところです。ご承知のように、京土会には椿の会というものがあります。この椿の会の方々に、昨今のこの動きをどのように見ていらっしゃるかを一度伺ってみたいと思っております。そして、京土会に対する要望は何かあるか、あるいは同窓会として支援できることがあるかどうか、そういったことも皆さんとともに考えていければと存じます。

木村前会長の路線を継承しつつ、今後とも同窓生の皆様にお役に立てるような活動を進めてまいりたいと存じます。ご指導ご鞭撻をいただきますようお願いを申し上げまして、新会長としての挨拶とさせていただきます。